

厚生労働科学研究費補助金

長寿科学総合研究事業

要支援者および軽度要介護者の介護サービスの
計画および標準化に関する研究

平成 18 年度 総括研究報告書

主任研究者 杉原 素子

平成 19 (2007) 年 3 月

目 次

I. 総括研究報告書

要支援者および軽度要介護者の介護サービスの計画および標準化に関する研究

研究要旨	1
A. 研究目的	2
B. 研究方法	3
1. 本研究事業の実施過程	4
2. 「軽度層高齢者の類別化」および「軽度層高齢者ケアプランの標準的モデル」について	4
3. 軽度層高齢者ケアプランの標準的モデル」に対応した個々のケアの内容の作成について	4
4. 倫理面への配慮	4
C. 研究結果	5
1. 「軽度層高齢者の類別化」および「軽度層高齢者ケアプランの標準的モデル」について	5
(1) 調査結果	5
1) 『起居・移動』について	8
2) 『ADL』について	8
3) 『IADL』について	8
4) 『社会参加』について	10
(2) 「軽度層高齢者の類別化基準」および類別結果について	12
1) 基本動作困難群	12
2) 基本動作高位群	12
3) 社会参加高位群	13
4) 家庭内役割無し群	13
5) 意欲の低下および不安が高い群	14
6) 意欲の低下および物忘れ自覚群	14
7) 類別結果のまとめ	20
(3) 軽度層高齢者の状態像について	23
2. 「軽度層高齢者ケアプランの標準的モデル」に対応した個々のケアの内容について	25
(1) 類別結果に対応した個々のケアの内容について	25
1) 基本動作困難群のケアの内容	25
①本群対象者のケアプランの基本的な考え方	25
②本群対象者のプログラム例	25
③具体的な活動紹介	27
2) 基本動作高位群のケアの内容	29
①本群対象者のケアプランの基本的な考え方	29
②本群対象者のプログラム例	29
3) 社会参加高位群のケアの内容	32

①本群対象者のケアプランの基本的な考え方	32
②本群対象者のプログラム例	32
4) 家庭内役割無し群のケアの内容	35
①本群対象者のケアプランの基本的な考え方	35
②本群対象者のプログラム例	35
5) 意欲の低下および不安が高い群のケアの内容	38
①本群対象者のケアプランの基本的な考え方	38
②本群対象者のプログラム例	39
6) 意欲の低下および物忘れ自覚群のケアの内容	41
①本群対象者のケアプランの基本的な考え方	41
②本群対象者のプログラム例	42
(2) 全体としての留意事項	43
1) 各群に共通して注意すべきポイントと考慮すべき共通プログラムについて	43
①共通プログラム1：聴力・視力の低下しているもの	43
②共通プログラム2：独居生活をしているもの	45
③共通プログラム3：福祉機器などの導入や生活環境の工夫などが有効なもの	46
④共通プログラム4：食事の栄養のバランスや摂取量に問題のあるもの	46
⑤共通プログラム5：必要な医学的管理が出来ていないと思われるもの	47
(3) ケアプランの事例検討	48
1) 事例1	48
①事例説明	48
②ケアプランの提案	49
2) 事例2	52
①事例説明	52
②ケアプランの提案	53
3) 事例3	56
①事例説明	56
②ケアプランの提案	57
4) 事例4	60
①事例説明	60
②ケアプランの提案	60
5) 事例5	64
①事例説明	64
②ケアプランの提案	65
D. 考 察	68
1. 軽度層高齢者の特性について	68
2. 軽度層高齢者の類別化について	70
3. 軽度層高齢者の個別プランの作成について	71
4. 介護予防を支える体制について	73
(1) 既存のサービス体制について	73

(2) これからのサービス体制について	73
E. 結 論	75
F. 健康危険情報	75
G. 研究発表	76

[資 料]

1. 『軽度層高齢者のケアプラン作成のための評価表』
2. 大田原市筋力向上トレーニングメニューについて
3. 平成 18 年度研究体制 研究員名簿

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）
（総括）研究報告書

要支援者および軽度要介護者の介護サービスの計画および標準化に関する研究

主任研究者 杉原 素子 国際医療福祉大学 保健学部長 作業療法学科長

研究要旨

本研究は、平成16・17・18年度の3ヵ年にわたる研究である。栃木県大田原市の協力のもと、軽度層高齢者の心身の状態を改善させることを目指し、そのためにケアプランの見直し、軽度層高齢者の状態の類別化と、それぞれの類別された群に必要なケアの内容を標準化することを目的とした。軽度層高齢者の類別化およびケア内容の標準化にあたっては評価方法の検討を併せて行った。

これらの研究成果により「軽度層高齢者の状態像」をまとめ、本年度は最終的に類別化した6群に対応した「軽度層高齢者ケアプランの標準的モデル」を提示し、それらを実践するための具体的なケアの内容を提案した。

（分担研究者） なし

A. 研究目的

平成 12 年度に開始した介護保険制度において、要支援・要介護 1 等の介護認定を受けた軽度層高齢者は、自立支援に向けたリハビリテーションサービスを受けることにより、日常生活の状態が改善されることが期待される。しかしながら、これら軽度層の高齢者は要介護認定者全体の約 1 / 2 を占めるとともに、要介護度が歳を重ねる毎に改善されずに重度化する傾向がみられた。

本研究の目的は、栃木県大田原市を研究のフィールドとして、軽度層高齢者の心身の状態を改善させるために、まずケアプランの見直しを行うとともに、軽度層高齢者の状態を類別化し、類別されたそれぞれの群に対し適切なケアの内容を検討し、それらを標準化することにある。

最終年度の平成 18 年度は、平成 16 年度からの 2 ヶ年の研究に基づいて最終的に類別化した 6 群に対応した「軽度層高齢者ケアプランの標準的モデル」を提示し、それらを実践するための具体的なケアの内容を提案することを目的とした。

B. 研究方法

1. 本研究事業の実施概要

本研究の主な対象は栃木県大田原市在住の軽度層高齢者である。大田原市は、本研究開始当初の平成16年9月30日時点、人口56,919人、65歳以上が9,795人(高齢化率17.2%)、75歳以上が4,628人(後期高齢化率8.1%)の農村地域である。その中で、要介護認定者数は1,438人、介護保険受給者数は1,149人、要支援受給者数144人(12.5%)、要介護1受給者数313人(27.2%)である。

本研究の実施過程を図1に示した。本研究事業開始時の平成16年度は大田原市在住の全ての軽度層高齢者473人を対象に類別化を実施した。この際の類別化の視点は「疾患別」とした。平成16年度はこの疾患別の類別化作業と同時に同市が国から受託した「平成16年度市町村介護予防モデル事業 筋力向上トレーニング事業/マシンなし」のモデル事業に本研究グループが全面的に協力し、市との共同研究というかたちでこの事業を実施した。

介護予防モデル事業への参画を通して、要支援・要介護1の軽度層高齢者は「疾患性が低い」ことがわかり、軽度層高齢者を対象に個別的なケアプランを作成するためには新たな指標を用いた類別化の作業が必要と考えた。そこで介護認定調査の一次判定資料調査項目に基づく類別化を試みたが、一次判定資料のチェック項目だけでは個別的な介入プランに結びつく類別化は難しく、最終的には平成17年度において「軽度層高齢者ケアプラン作成のための評価試案」を作成し、作成した評価試案を用いた聴き取り調査結果から「軽度層高齢者の類別化」を試みた。この結果から「軽度層高齢者の状態像」を把握し、「軽度層高齢者ケアプランの標準的モデル」を提案することができた。

平成18年度は「軽度層高齢者ケアプランの標準的モデル」に応じた一つひとつのケアの内容を提案した。

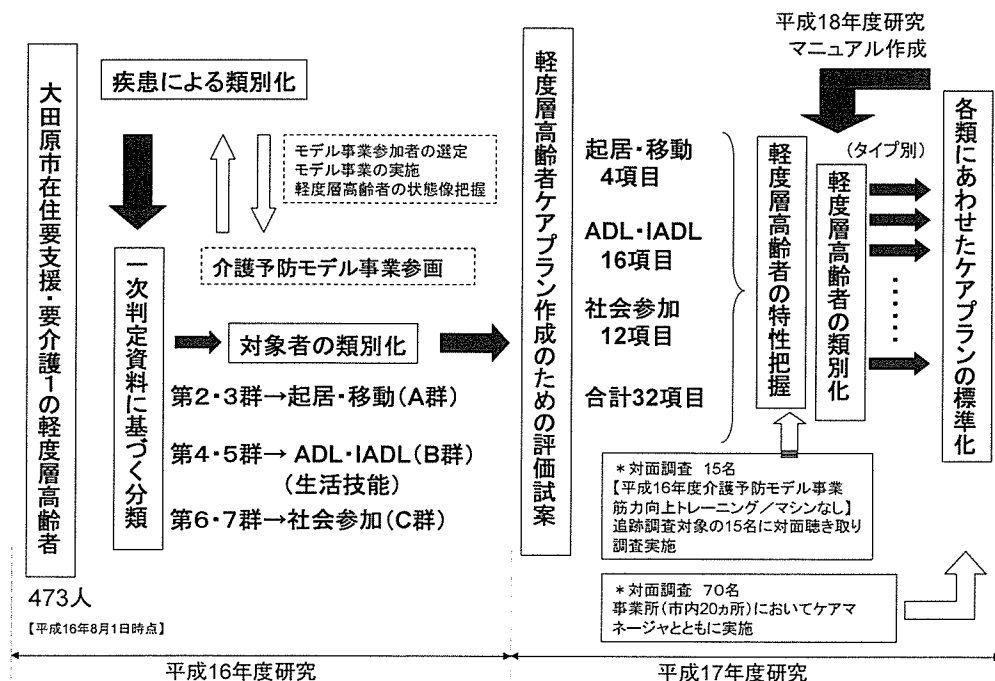


図1 本研究の実施過程

2. 「軽度層高齢者の類別化」および「軽度層高齢者ケアプランの標準的モデル」について
平成 17 年度に作成した「軽度層高齢者のケアプラン作成のための評価表」を利用し、介護予防事業に取り組んでいる栃木県内の 3 施設に面接調査を依頼した。面接調査は各施設に勤務する作業療法士が担当し、各々事前に調査方法について説明し同意を得て行った。

データの分析は、平成 17 年度に調査した軽度層高齢者 70 名に本年度の 54 名を加え計 124 名を対象とした。

調査結果に基づき、対象者を類別化し、「軽度層高齢者ケアプランの標準的モデル」を検討した。

3. 「軽度層高齢者ケアプランの標準的モデル」に対応した個々のケア内容の作成について
軽度層高齢者の類別結果に基づき、類別化した群および軽度層高齢者に共通するプログラムについて、個々のケア内容を検討した。

4. 倫理面への配慮

本研究事業の開始にあたり大田原市個人情報保護に関する届出を提出した。また、個人情報の取り扱いには個人が特定されないよう十分注意し、データは責任者が保管し、データ処理の際には氏名を記号化した。

C. 研究結果

1. 「軽度層高齢者の類別化」および「軽度層高齢者ケアプランの標準的モデル」について (1) 調査結果

聴き取り調査は、56歳から96歳（80.8歳±8.9）、男性31名、女性93名の計124名に対して実施し、その結果を用いて類別化を行った。介護度は、要介護1が57名（46%）、要支援者が67名（54%）である。なお、要支援の内訳は旧判定の要支援者25名（20%）、現行の要支援1が17名（14%）、要支援2が25名（20%）である。（表1-1）

表1-1 対象者の属性（要介護度）

	男性(人)	女性(人)	計(人)	割合(%)
要介護1	19	38	57	46
要支援(旧)	4	21	25	20
要支援1	3	14	17	14
要支援2	5	20	25	20
計	31	93	124	100
割合(%)	25	75	100	—

本調査の結果を表1-2に示した。この表は横に32項目の設問、縦に各対象者を記載したものである。

表の記載方法は次の通りとした。

『○』: 該当する設問項目について「できる」もしくは「心配ない」。

『△』: 該当する質問項目について「部分的にできる」もしくは「少し不安」。

『×』: 「出来ない」もしくは「心配である」。もしくは「非該当」。

『!』: 「困っている」と回答した項目。例えば『○!』は本人として「できているが困っている項目」、『×!』は「できなくて困っている項目」である。

『?』: 調査者が判断に迷った項目。

表1-2. 「軽度層高齢者ケアプラン作成のための評価」調査結果(1)

No	性	年齢	介護度	家族	基本動作				ADL				IADL										社会参加																
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28		29	30	31	32		
1	女	75	要支援	同居	○	△	△	△	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	×	×	×	△	○	○	△	○	○	△	○	○	×	×	×	○	○	○	慢性(心)		
2	女	78	要支援	同居	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	△	○	○	△	△	×	×	△	○	○	○	○	○	△	○	△	△	△	△	△	△	骨・関節・中枢			
3	女	85	介護1	同居	△	△	△	△	○	○	○	△	×	△	○	×	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	慢性(心)				
4	女	74	介護1	同居	△	△	△	×	○	△	△	△	△	○	×	×	×	×	△	△	△	×	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○	パーキン・慢性(心)				
5	女	84	介護1	同居	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	△	○	×	○	○	○	○	○	○	×	×	△	△	△	△	△	骨・関節・慢(DM)				
6	男	70	介護1	同居	○	△	△	△	○	△	△	△	○	○	×	×	×	×	△	×	×	△	△	△	△	△	△	×	×	×	×	△	△	△	中枢				
7	女	81	介護1	同居	×	△	×	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	骨・関節・慢(心)				
8	女	84	介護1	同居	△	○	△	△	○	○	○	△	×	×	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	中枢・骨・関節			
9	男	79	介護1	同居	△	△	○	○	○	○	○	△	○	×	×	×	×	×	×	△	○	△	○	○	○	○	○	×	×	△	△	△	△	△	中枢(骨粗・DM)				
10	男	47	要支援	同居	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	×	○	△	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	△	△	△	△	△	中枢(モヤモヤ)				
11	女	85	要支援	独居	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	慢性(DM)				
12	男	84	介護1	同居	○	△	△	△	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	○	○	○	×	○	×	×	○	○	○	△	中枢				
13	女	79	要支援	独居	○	△	△	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	骨・関節			
14	女	86	要支1	同居	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	慢性(DM)			
15	男	93	介護1	同居	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	中枢			
16	女	90	要支援	同居	△	△	△	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	骨・関節(粗鬆)		
17	男	85	介護1	同居	○	△	△	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	慢性(高血圧)・認			
18	女	80	介護1	同居	○	△	△	△	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	×	×	×	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	骨・関節			
19	女	76	介護1	同居	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認知			
20	女	89	介護1	同居	△	△	△	×	○	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	△	×	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	骨・関節・DM			
21	女	86	要支援	同居	△	△	△	△	○	○	△	×	○	△	×	△	×	×	×	×	△	×	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	認知・悪腫			
22	女	84	要支2	同居	×	△	△	△	○	○	○	○	×	×	×	○	△	×	△	×	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	パーキン・骨・関節			
23	女	80	介護1	同居	△	△	○	△	○	○	○	○	×	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	骨・関節・中枢・DM			
24	女	78	要支援	同居	△	△	△	△	○	○	○	×	×	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	中枢		
25	男	81	介護1	同居	×	△	×	×	○	△	△	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	骨・関節			
26	男	77	介護1	同居	△	△	△	○	○	○	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	中枢		
27	女	65	要支援	同居	△	△	○	×	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	先天		
28	女	85	要支援	独居	△	△	×	×	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	中枢・腰P		
29	女	88	介護1	独居	×	△	×	△	○	○	○	○	×	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	腰P		
30	男	82	介護1	同居	○	○	○	△	○	△	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	骨・関節		
31	女	70	介護1	同居	×	×	×	×	○	△	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	骨・関節		
32	男	75	介護1	同居	○	○	○	○	○	○	△	△	△	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	中枢(DM)		
33	女	87	介護1	同居	△	×	×	×	○	△	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	骨・関節・腰P		
34	女	67	要支援	独居	○	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	先天・中枢・骨・関節	
35	女	90	介護1	同居	×	×	△	×	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	骨・関節(粗鬆)	
36	女	85	介護1	同居	×	△	×	×	○	○	○	○	○	△	○	×	×	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	慢(高血圧)・腰P	
37	女	87	要支援	同居	×	△	△	△	○	○	○	○	×	○	○	○	○	△	○	○	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	骨・関節	
38	女	84	介護1	同居	×	△	△	△	○	○	△	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	慢(高血圧)・心		
39	男	75	介護1	同居	○	○	×	△	△	△	△	△	×	×	○	△	×	△	×	△	×	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	認・中枢		
40	女	91	要支援	同居	○	○	△	△	○	○	○	○	○	×	△	×	△	×	△	×	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	骨・関節
41	女	90	要支援	独居	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	慢(胃・高血圧)	
42	女	84	要支援	同居	○	△	△	△	○	○	△	△	○	×	○	○	○	×	×	×	×	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	慢(胃)・不定愁	
43	女	85	要支援	同居	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	△	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	骨・関節・不眠	
44	女	85	要支援	同居	×	△	○	×	○	○	△	△	△	×	△	×	△	×	△	×	△	×	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	認・骨・関節	
45	女	88	介護1	同居	○	△	×	△	○	○	○	○	×	×	○	×	×	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	慢(高血圧)・脳虚血	
46	女	95	介護1	同居	×	△	○	×	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	慢(心)
47	女	91	介護1	同居	△	△	△	△	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	骨・関節・慢(心)
48	女	90	介護1	同居	○	○	△	△	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	中枢・認
49	女	92	要支援	同居	△	△	△	×	○	○	○	○	○	△	○	○	○	×	×	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	骨・関節
50	女	82	介護1	同居	×	△	△	×	○	○	△	△	×	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	骨・関節・慢(心)
51	女	83	介護1																																				

1) 『起居・移動』について

本評価領域は、設問 1～4 の 4 項目からなっている。

起居・移動能力について「出来なくて困っている」もしくは「出来ていても困っている」ことがあると回答した対象者は、124 名中 83 名 (67%) いた。逆に、『起居・移動』4 項目のすべてが「できる」、「部分的にできる」、もしくは「できなくても困っていない」対象者は 124 名中 41 名で 33% となり、中には痛みなどの訴えがある対象者もいたが基本動作については特に問題がないと回答していた。

2) 『ADL』について

本評価領域は設問 8～12 の計 5 項目からなっている。

本領域で「出来なくて困っている」ことがあると回答した対象者は、124 名中 25 名 (20%) である。主な理由としては、骨・関節疾患、脳卒中やパーキンソン病などの身体的要因が挙げられた。

入浴に関する項目では、「できない・自宅で入浴しないようにしている」と回答する対象者が 124 名中 12 名 (10%) おり、「怪我をしたら困る」、「一人暮らしなので心配である」などの理由からデイサービスなどを利用していた。

3) 『IADL』について

本評価領域は設問 5～7、設問 13～20 までの計 11 項目からなっている。

本領域で「出来なくて困っている」もしくは「出来ていても困っている」ことがあると回答した対象者は、124 名中 50 名 (40%) であった。

以下に『IADL』の各項目について設問別の回答結果を示す。

①設問 5：『公共交通機関の利用や自動車、自転車、バイクなどを運転した外出』

124 名中 29 名 (23%) が「できる」と回答したが地域の特性により公共交通機関の利用はほとんどなかった。逆に 60 名 (48%) は「できない」と回答していたが、そのほとんどのものは、同居の家族などに必要に応じて頼むことができており特に問題にはなっていなかった。ただし、14 名 (11%) は「困っていると」感じていた。

②設問 6：『栄養のバランスと量を考えた食事』

124 名中 56 名 (45%) が「できる」と回答し、18 名 (15%) が「助言や指導があればできる」と回答していた。「できない・していない」と回答した対象者は 35 名 (28%) いたが、殆どの回答者は「できなくて困っている」という状態ではなく、同居の家族が実施していた。

③設問 7：『食事の準備と後片付け』

124 名中 48 名 (39%) が「できる」と回答し、30 名 (24%) が「助言や指導があ

ればできる」と回答していた。「できない・していない」と回答した対象者は46名(37%)おり「できなくて困っている」という状態ではなく、同居の家族が実施していた。また、1名は、独居で家族から火の使用を制限されていることから弁当の宅配サービス(自費を含む)を3食利用していた。

④設問 13 : 『健康管理面について』

「自分の健康上の問題を適切に自覚し管理できている」ものが多く、124名中90名(73%)であった。

⑤設問 14 : 『金銭管理について』

124名中43名(35%)の対象者が自分で金銭を管理しており銀行や郵便局、農協などを利用していた。また、32名(26%)は同居の家族が実施しており行う必要がないと回答した。なお、45名(36%)は「助言や指導があれば一人でできる」状態であり、その内6名は「できなくて困っている」と回答した。

⑥設問 15 : 『電話の使用状況』

124名中76名(61%)が必要に応じて使用することができており、「家族・知人などの知っているところ2、3箇所への連絡ができる」18名(15%)を含めると76%の対象者が日常的に利用可能であった。また、15名(12%)は聴力の低下により「使用できなくて困っている」と回答した。その他の対象者は、「使用できなくても困っていない」、「使用しない」と回答し、「詐欺が怖いので電話に出ないようにしている」との理由を挙げているものもいた。

⑦設問 16 : 『ゴミ出しの状況』

124名中28名(23%)が「ゴミの分別や袋を縛るなどの準備を行い、収集場所までもっていく」と回答した。56名(45%)は同居の家族が実施しており、特に行っていなかった。

⑧設問 17 : 『掃除や整理整頓の状況』

124名中62名(50%)が「必要な場所を必要に応じてすることができる」と回答した。「助言があればできる」が27名(22%)おり、その内6名は「困っている」と回答した。29名(23%)は自分で行っておらず4人ができなくて困っていると回答した。

⑨設問 18 : 『買物の状況』

124名中38名(31%)が「必要な品を自分で買いに行くことができる」と回答した。39名(31%)は「援助があればできる」と回答し、主にスーパーなどへの移動を家族に援助されている状況である。47名(38%)は「やらない・やる必要が無い・できない」と回答しており、「できなくて困っている」と回答した対象者は6名(5%)であった。

⑩設問 19 : 『洗濯の状況』

124名中59名(48%)が「必要に応じてできる」状況にある。27名(23%)は「援助があればできる」と回答し、その内「困っている」ものは4名(3%)いた。

⑩設問 20：『自宅の施錠、火の始末』などの安全管理

124名中60名（48%）が「自分で安全に配慮して管理できる」と回答していた。また、「できない・やる必要がない」と回答したものは42名（34%）である。

4) 『社会参加』について

『社会参加』は設問 21～32 までの計 12 項目からなっている。本領域で「出来なくて困っている」もしくは「出来ていても困っている」ことがあると回答した対象者は、124名中64名（52%）いた。

以下に『社会参加』の各項目について設問別の回答結果を示す。

①設問 21：『家族・知人との交流』

124名中99名（80%）が「家族・知人との交流が毎日ある」と回答した。「家族・知人との交流が週に1度もない」と回答した対象者は4名（3%）、その内3名は「困っている」と回答した。

②設問 22：『視力の状況』

「日常生活に支障ない」と回答したものは124名中103名（83%）である。「外出や人と話すことが億劫になる」と回答したものは21名（17%）いた。その内、8名は「困っている」と回答した。

③設問 23：『聴力の状況』

「日常生活に支障ない」と回答したものは124名中91名（73%）である。また、31名（25%）は、「時々、聞こえが悪いため、歩行や外出に不自由を感じたり人と交流することが億劫になる」と回答しており、15名（12%）が「困っている」と回答した。回答者のなかで2名は聴力が不自由なため他者と交流ができないと回答した。

④設問 24：『他者との意思疎通』

「日常生活に支障ない」と回答したものは124名中111名（90%）である。

⑤設問 25：『身だしなみ』

124名中109人（88%）が「清潔で季節感のあるものを自分で選べる」と回答した。「全く気にしない」と回答した対象者は5名（4%）であり、「助言や指導を必要とする」ものは10名（8%）であった。ただし、身だしなみについて「困っている」と回答した対象者はいなかった。

⑥設問 26：『生活のリズム』

「規則正しい生活をしている」と回答した対象者は124名中113名（91%）。「出来ていない」と回答した対象者は4名（3%）おり、デイサービスを利用することで生活リズムをつくるようにしていた。

⑦設問 27：『自由時間の過ごし方』

「自分なりに工夫している」と回答した対象者は124名中89名（72%）。また20

名（16%）が「助言や援助が必要である」と回答し、15名（12%）が「なにもしない」と回答した。その中で5名（4%）が自宅での過ごし方に「困っている」と回答した。

⑧設問 28：『趣味活動』

124名中49名（40%）が「特定のものがある」と回答した。「特定のものはないが好みはある」と回答した対象者は45名（36%）、「なにもしない」と回答したものは30名（24%）であり、全体で12名（10%）が趣味活動について「困っている」と回答した。

⑨設問 29：『物事に取り組む意欲について』

「自発的に取り組む」と回答した対象者は124名中76名（61%）。「援助や助言が必要である」と回答したものは124名中35名（28%）、「何もしたくない」と回答したものは13名（10%）おり、全体で「困っている」と回答したものは8名（6%）いた。

⑩設問 30：『不安』

「ほとんど無い」と回答した対象者は124名中64名（52%）。「時々ある」は50名（40%）、「いつも不安」は10名（8%）であり、「困っている」と回答したものは36名（29%）いた。

⑪設問 31：『睡眠状態』

124名中74名（60%）が「よく眠れる」と回答した。「時々眠れないときがある」は44名（35%）、「いつも眠れない」は6名（5%）であり、全体で「困っている」と回答したものは19名（15%）いた。

⑫設問 32：『物忘れ』

「心配していない」が124名中58名（47%）である。「時々気になる」は45名（36%）、「いつも気になる」は21名（17%）、「困っている」と回答したものは36名（29%）いた。

(2) 「軽度層高齢者の類別化基準」および類別結果について

軽度層高齢者の類別化をケアプランの策定を念頭に置いて行い各評価領域のチェックに基づいて6群に分類することが出来た(表2-1~表2-6)。以下に各群への類別化の基準と類別結果について述べる。

1) 基本動作困難群(表2-1)

i) 対象

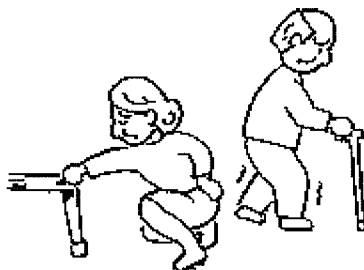
『起居・移動』の実施状況にかかわらず困っていることがあるもの。

ii) 類別化基準

『起居・移動』領域の各項目のいずれかに「困っている」と回答したもの。

iii) 類別結果

調査対象124名中83名(67%)が該当した。



2) 基本動作高位群(表2-2)

i) 対象

『起居・移動』といった基本動作のすべてを特に問題なく行うことが可能なもの。

ii) 類別化基準

『起居・移動』領域の設問1~4の項目のすべてが「できる」もしくは「心配ない」に回答したもの。

iii) 類別結果

調査対象124名中12名(10%)が該当した。



3) 社会参加高位群 (表 2-3)

i) 対象

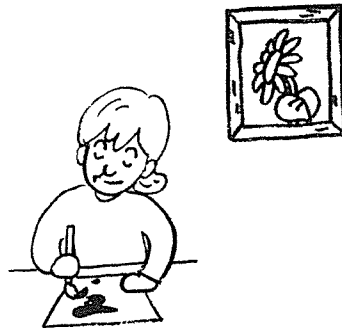
『社会参加』が特に問題なく行えるもの。

ii) 類別化基準

- ・ 『社会参加』領域の設問 21~32 の項目のすべてが「できる」もしくは「心配ない」に回答したもの。
- ・ 『社会参加』領域の設問 28・30・31 の『趣味活動』・『不安について』・『睡眠状態』については「好みがある程度」、「時々不安」、「時々眠れない」程度のものは対象とする。

iii) 類別結果

調査対象 124 名中 22 名 (18%) が該当した。



4) 家庭内役割無し群 (表 2-4)

i) 対象

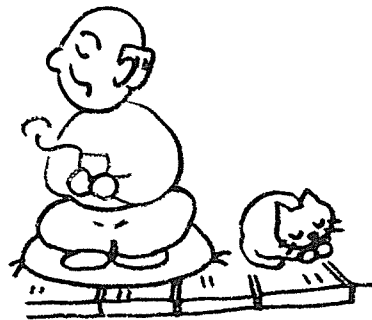
『食事の準備と片付け』・『洗濯』・『掃除』などを同居家族が実施しており、行う必要のないもの。

ii) 類別化基準

『IADL』領域の設問 7・17・19 のすべての項目について「やる必要が無い」と回答したもの。

iii) 類別結果

調査対象 124 名中 19 名 (15%) が該当した。



5) 意欲の低下および不安が高い群 (表 2-5)

i) 対象

日常的に意欲が低く、なんらかの不安をもちながら生活しているもの。

ii) 類別化基準

設問 27・28・29 のいずれか一つ以上の項目に「部分的にできる (少し不安)」もしくは「できない (不安)」と回答し、同時に設問 30 も「部分的にできる (少し不安)」もしくは「できない (不安)」と回答したもの。

iii) 類別結果

調査対象 124 名中 43 名 (35%) が該当した。



6) 意欲の低下および物忘れ自覚群 (表 2-6)

i) 対象

日常的に意欲が低く、物忘れが気になるもの。

ii) 類別化基準

設問 27・28・29 のいずれか一つ以上の項目に「部分的にできる (少し不安)」もしくは「できない (不安)」と回答し、同時に設問 32 も「部分的にできる (少し不安)」もしくは「できない (不安)」と回答したもの。

iii) 類別結果

調査対象 124 名中 47 名 (38%) が該当した。



表 2-2. 基本動作困難群の類別結果

No	性	年齢	介護度	家族	基本動作				ADL				IADL								社会参加																					
					1	2	3	4	8	9	10	11	12	13	5	6	17	19	7	16	18	14	20	15	21	22	23	24		25	26	27	28	29	30	31	32					
10	男	47	要支援	同居	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	×	○	△	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	中枢(モヤモヤ)
11	女	85	要支援	独居	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	慢性(DM)	
14	女	86	要支援1	同居	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	△	△	△	△	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	慢性(DM)	
19	女	76	介護1	同居	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認知	
32	男	75	介護1	同居	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	中枢(DM)		
43	女	85	要支援	同居	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	△	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	骨・関節・不眠		
73	女	71	要支援1	同居	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	×	○	○	△	×	×	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	脳梗塞 HT		
83	女	61	要支援1	同居	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	×	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	脳出血 子宮癌		
92	男	46	要支援2	同居	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○	△	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	脳梗塞	
95	男	80	要支援2	同居	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	急性腰痛症 胃潰瘍 右OA 脊柱間狭窄症		
119	男	73	要支援1	同居	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	×	△	△	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	情報なし	
122	男	75	介護1	同居	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	×	○	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	情報なし	

表 2-3. 社会参加高位群の類別結果

No	性	年齢	介護度	家族	基本動作				ADL				IADL								社会参加																				
					1	2	3	4	8	9	10	11	12	13	5	6	17	19	7	16	18	14	20	15	21	22	23	24		25	26	27	28	29	30	31	32				
11	女	85	要支援	独居	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	慢性(DM)	
13	女	79	要支援	独居	○	△	△	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	骨・関節	
16	女	90	要支援	同居	△	△	○	△	○	○	○	△	○	△	△	×	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	骨・関節(粗鬆)
19	女	76	介護1	同居	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認知	
28	女	85	要支援	独居	△	△	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	中枢・腰P	
29	女	88	介護1	独居	×	△	×	△	○	○	○	○	○	×	○	△	○	△	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	腰P	
30	男	82	介護1	同居	○	○	△	○	○	○	△	△	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	骨・関節	
31	女	70	介護1	同居	×	×	×	×	○	○	△	○	○	△	×	×	×	×	×	×	×	×	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	骨・関節	
35	女	90	介護1	同居	×	×	△	×	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	骨・関節(粗鬆)
38	女	84	介護1	同居	×	△	△	△	○	○	○	△	○	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	慢(高血圧・心)
45	女	88	介護1	同居	○	△	×	△	○	○	○	○	○	×	×	○	×	×	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	慢(高血圧)・脳虚血
46	女	95	介護1	同居	×	△	○	×	○	○	○	△	○	△	△	○	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	慢(心)
47	女	91	介護1	同居	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	骨・関節・慢(心)
51	女	83	介護1	同居	×	△	○	×	○	○	△	△	○	×	△	△	△	△	△	△	△	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	パーキンソン
60	女	84	要支援	同居	○	△	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	△	×	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	骨・関節
62	男	78	要支援	同居	○	△	△	△	○	×	○	○	○	○	×	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	中枢
92	男	46	要支援2	同居	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	△	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	脳梗塞
102	女	89	介護1	同居	△	△	△	×	×	×	×	○	○	○	△	○	△	○	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	脳梗塞・OA
106	男	59	要支援2	独居	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	脳卒中
108	女	84	要支援2	同居	×	△	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両変形性膝関節症・腰椎症
121	女	95	要支援2	同居	×	△	○	△	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	情報なし
114	女	69	要支援1	独居	△	△	△	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	情報なし